

2019年2月1日（金）

未来への扉

高等特別支援学校支援部 116号



😊学年劇のステキな秘密😊

にぎやかな文化祭が終わり、もう一週間がたちました。保護者のみなさん、応援ありがとうございました。生徒の皆さんも少しずつ日常に戻ってきているところと思います、3年生以外は。

1年生の新喜劇にゲラゲラ笑った私は、ひとりに声を掛けました。「1年生上手だったね〜。」

「いえ、先輩達が上手でした。僕たちはまだまだです。」

100点満点の返事を聞きながら、ちょっと思うことがありました。学年劇でのいろいろな成長のヒミツを皆さんにお話したいなあと思い、下に紹介させていただきます。

今年の劇に限ったことではなく、毎年毎年、生徒たちに起こっていることですが……

1年劇はゼロからのスタートです。スポットライトが当たる華やかな表舞台とその舞台裏を一緒に作り上げていきます。私が1年生の担任をしていた時によく生徒に聞かれました。「先生、ぼくの台本はどこですか？」

思えば、今までの行事も授業も何をしたらいいか、自分の荷物はどこに置けばよいか決まっています。表舞台ですることは決まっていますが、舞台裏は「適切に待つ」以外何も決まっていません。

舞台裏の控室は、舞台に光がもれないように、電灯も点けられない薄暗い所です。そこに、小道具や大道具、人数分の台本や防寒着がどっさり置かれており、そこで表舞台の時間より長い時間待っています。

そこでいろいろなことを体験的に学んでいきます。

- ① 自分の荷物を置いた場所を覚えておくこと
- ② 荷物は小さくまとめておくこと
- ③ 荷物を舞台に出る通路に置くと蹴られるし、邪魔になる

- ④ 物をいい加減なところに置くと、落ちて音が響く
- ⑤ シャベリ声や笑い声も響いて、劇の邪魔になる
- ⑥ 舞台を見たいと近づきすぎると、通行の邪魔になったり、自分にスポットライトが当たっていたりする
- ⑦ 舞台に出るときは、防寒着やマスクを取り忘れない
- ⑧ 忘れていた友達に教えてあげる
- ⑨ 自分が舞台に出るタイミングを逆算して防寒着を脱ぐといったところでしょうか？生徒達は、表舞台の成功のために、舞台裏もしっかり作り上げていきます。自分の役割を一生懸命する。そして、友達の一生懸命を邪魔しない、応援する、助ける。そのために必要なソーシャルスキルを体験的に身に付けていきます。

2年劇は、生徒達も2回目の取り組みなので、見通しを持って行うことができます。1年生のゼロからのスタートに比べれば少し余裕も感じられ、充実した劇になります。

生徒達にとって同じ事を2、3回するということの大切さを実感します。余談ですが、本校の調理実習は同じメニューを繰り返すことがあります。初めてのことが苦手なタイプの生徒には、1回だけやって終わりというものゝ実力が発揮できずに上手くできなかったという思いだけ積み重なるかもしれません。

行事が3回ずつある3年間というのは、とても意味がある期間だと実感します。

さて、最後に3年劇です。3年目になれば、今までの集大成で一番いい劇が……と思われるかもしれませんが、ちょっと様子が違います。

昔こんなことがありました。主役の男子生徒は、1月に入ってから劇本番まで、学校に来た日は始業式と文化祭の土日だけだったということがありました。……そうです、結合実習が入っていたのです。土曜日は少し学校に残って劇の練習をしました。短い時間で、緊張が張り詰めた中、劇を仕上げていきました。

この時の主役の生徒ばかりではありません。3年生になると十分な練習ができずに参加する生徒が数多くいます。でもこれも毎年の3年劇の状況です。実習は急に決まる事もありますし、そうなった時の覚悟も3年生はしています。実習も、最後の行事もできる限りしっかりやりたい。そう考えると、2年生の時が一番、余裕もでき、劇だけに集中できる幸せな

時だったと気付くことができます。自分が1、2年生の時は劇だけに精一杯で、その時の3年生がこんな状況の中で劇に臨んでいるなんて想像もできなかったことでしょう。

3年劇の練習は、人がそろっていない状況で進んでいきます。あの子がいない、その子がいない。そして実習から帰ってきたばかりの生徒はもちろん練習不足の状況です。いない子の代役を務め、練習不足の子に教えてあげ、昼休みの練習に付き合う。そして自分にも実習があれば、立場が代わって教え合います。

十分な練習ができない、だからこそ、お互いを思いやる気持ちが3年劇には見て取れます。他の子の忙しい状況を知っているから、難しい役を進んで引き受けてくれる生徒も出てきます。

そして、今年の3年生も同じです。

1月中に結合実習があった生徒もいますし、他の生徒がみんな文化祭明けの代休でのんびりすごしていた時に面接や実習に出掛ける生徒もいました。そして来週の2月4日（月）からは、多くの3年生が内定実習に出ていきます。

この代休明けの水木金、1、2年生は日常に帰っていく3日間でしたが、多くの3年生にとっては実習に向かう3日間になっています。

だからそのことを知っている私達教員は、単純に3つの劇を比べることができません。練習の状況がこれほど違うからです。

そのヒミツを知ると、学年劇は3回あるから……とは思えなくなります。1回1回その時の劇で大切なことを身に付けていって欲しいのです。

3年生のみなさん、忙しい日々が続きますね。

その日々も卒業した先輩達が過ごしてきた日々です。そして、今の1、2年生達にも待ち受けている日々でもあります。卒業までの限られた日々を精一杯過ごしていきましょう。

